



# 奈良県感染症発生動向調査還元情報（週報）

奈良県感染症情報センター Nara IDS  
（奈良県保健環境研究センター内）



## ● 今週の概要

- 今週の感染症情報
- 全数把握対象感染症発生状況（平成 24 年 8 月） NEW
- 気になる話題 インフルエンザによる集団発生がありました NEW



**（調査週）平成 24 年 第 37 週 9 月 10 日（月）～9 月 16 日（日）**

奈良県および二次医療圏別発生状況（奈良県上位 5 疾患）（5 週前からの動向）

順位	疾患	定点当り	奈良県	北部	中部	南部
1	感染性胃腸炎	1.94	→	→～↑	→	→
2	RS ウイルス感染症	0.63	↑↑	↑↑	→～↑	→
3	咽頭結膜熱	0.49	↑	→～↑	→～↑	→
3	突発性発しん	0.49	↑	↑	→	↑↑
5	A 群溶連菌咽頭炎	0.34	↑	↑	↑↑	→～↓

全県の動きと目立って異なる推移（定点当りの変化程度で実数ではない）を太い矢印で示す。

**県北部地区概況** 報告数は79例で、前週報告の90例から減少。上位5疾患は、①感染性胃腸炎、②RSウイルス感染症、③突発性発しん、④A群溶連菌咽頭炎＝ヘルパンギーナの順。RSウイルス感染症の報告数（16例）は、ほぼ倍増。感染性胃腸炎の報告数（33例）は、ほぼ横ばい。突発性発しんの報告数（7例）も、ほぼ横ばい。A群溶連菌咽頭炎の報告数（5例）も、ほぼ横ばい。ヘルパンギーナの報告数（5例）は、半減。奈良市HCおよび郡山HC両管内眼科定点と基幹定点からの報告は、すべてなかった。（村井 記）

**県中部地区概況** 報告数は、63例から77例と増加した。上位5疾患は、感染性胃腸炎、咽頭結膜熱、RSウイルス感染症・水痘、A群溶連菌咽頭炎・手足口病・突発性発疹・流行性耳下腺炎の順であった。感染性胃腸炎は、32例と横ばいであり、咽頭結膜熱は、10例と増加傾向である。眼科定点からは、流行性角結膜炎1例の報告が、葛城保健所よりあった。基幹定点からの報告はなかった。  
(高木 記)

**県南部地区概況** 報告数(第36週→第37週)は12例→22例と増加。報告のあった疾患は、①突発性発疹(3例→5例)、②咽頭結膜熱(0例→4例)、③感染性胃腸炎(2例→3例)、④A群溶連菌咽頭炎(3例→2例)、④手足口病(1例→2例)、④ヘルパンギーナ(0例→2例)、④無菌性髄膜炎【基幹定点】(0例→2例)、⑧流行性耳下腺炎(0例→1例)、⑧マイコプラズマ肺炎【基幹定点】(1例→1例)であった。  
(柳生 記)

## 【全数把握対象感染症発生状況(平成24年8月)】

平成24年8月に奈良県内の保健所に届出のあった全数把握対象感染症は、以下のとおりです。

8月報告患者数(平成24年9月19日現在)

類型	疾患名/保健所名	奈良市	郡山	桜井	葛城	内吉野	吉野	計
2類	結核	8	12	8	2	2	1	33
3類	腸管出血性大腸菌感染症	4	2	1	1			8
4類	レジオネラ症		1					1
5類	アメーバ赤痢	1						1
5類	後天性免疫不全症候群			1				1
5類	風しん		1	1				2

(感染症情報センター 記)



# インフルエンザによる集団発生がありました

毎年、12月から3月にかけて急性呼吸器系感染症として、インフルエンザが流行します。奈良県感染症情報センターでは県内55ヶ所の医療機関の協力のもと、患者数報告に基づいてインフルエンザ発生動向を分析しています。直近、第35週から37の週(8/27～9/16)の間での患者届出数からは、奈良市管内で4名、その他の保健所管内では0名との報告から、まだまだ本格的な流行期には程遠い感があります。

この様な状況のなか、郡山保健所管内と奈良市管内ではほぼ同時期に2箇所の幼稚園で集団インフルエンザ感染が発生しましたので注意喚起のためその概要をお知らせします。患者年齢は4から5歳児、患者総数は25名。ウイルス解析の結果、両者ともA(H1)pdm09でした。現在の全国の状況は、沖縄県、福岡県、秋田県などでA 香港型インフルエンザA(H3)が流行していますが、ごくわずかに神奈川県でA(H1)pdm09が流行しているのにすぎず、近畿県内ではウイルス発生報告はありません。本県での感染経路は不明ですが県北部を中心としたインフルエンザは潜在的に継続する可能性があり、いましばらく注意深い観察が必要と考えます。

	発症者数	初発感染	結果
A 幼稚園 (5歳児)	12名	9/3	A(H1)pdm09
B 幼稚園 (4-5歳児)	13名	9/13	A(H1)pdm09

\* A(H1)pdm09:2009年に世界的流行したウイルス種に類似

## インフルエンザの予防法



### 1. 流行前のワクチン接種

今シーズンのワクチンはA型2種類、B型1種類の抗原が含まれています(A/カリフォルニア株、A/ビクトリア株、B/ウイスコンシン)。任意接種ですので詳しくは最寄りの医療機関に問い合わせください。

### 2. 外出後の手洗い、うがい

手指など体に付着したウイルスを除去するために有効です。

### 3. 適度な湿度の保持

空気が乾燥すると、のどの粘膜の防御機能が低下し、インフルエンザにかかりやすくなります。

### 4. 十分な休養とバランスのとれた栄養摂取：抵抗力を高めるため。

(感染症情報センター 記)

感染症情報センターホームページアドレス

[http://www.pref.nara.jp/dd\\_aspx\\_menuid-27874.htm](http://www.pref.nara.jp/dd_aspx_menuid-27874.htm)